

第 14 回 大阪市障がい者施策推進協議会 発達障がい者支援部会 次 第

日 時：令和元年 9 月 30 日（月）午前 10 時～正午

場 所：大阪市役所 地下 1 階 第 1 1 共通会議室

【 議事次第 】

- 1 開 会
- 2 部会長選出
- 3 議 題
 - （1）発達障がい者支援センター事業実施状況について
 - （2）発達障がい者支援施策の実施状況等について
 - （3）その他
 - ・ 2019 年度大阪市障がい者等基礎調査について
 - ・ 切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくりについて
- 4 そ の 他
- 5 閉 会

【 配付資料 】

- | | |
|---------|--------------------------|
| 資料 1 | 発達障がい者支援センター事業実施状況について |
| 資料 2 | 発達障がい者支援施策の実施状況等について |
| 資料 2 別紙 | 発達障がい者就業支援コーディネーター事業実施報告 |
| 資料 3 | 2019 年度大阪市障がい者等基礎調査について |
| 資料 4 | 切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくりについて |
| 参考資料 | 大阪市障害者施策推進協議会条例 |

令和元年度 大阪市発達障がい者支援センター連絡協議会委員名簿

(敬称略：順不同)

所 属	氏 名
大阪市立健康局 保健所 管理課 母子保健担当	医務主幹 池宮 美佐子
大阪市立総合医療センター 療育相談室	小西 和朗
大阪市子ども青少年局 子育て支援部 管理課	担当係長 飯田 和代
大阪市子ども青少年局 保育施策部 保育所運営課	担当係長 新山 りえ
大阪市教育委員会事務局 指導部 初等教育担当	指導主事 石川 正
大阪市教育委員会事務局 指導部 中学校教育担当	指導主事 筵平 雅子
大阪市教育委員会事務局 指導部 高等学校教育担当 高等学校教育グループ	総括指導主事 湯浅 和久
大阪市教育委員会事務局 指導部 インクルーシブ教育推進担当 インクルーシブ教育推進グループ	総括指導主事 高井 一男
大阪市子ども青少年局子ども相談センター 教育相談担当	総括指導主事 今中 綾子
大阪市立心身障がい者リハビリテーションセンター 相談課	担当係長 下田 裕子
大阪市子ども青少年局南部子ども相談センター 心理相談	担当係長 上田 吉宏
大阪市更生療育センター	療育支援係長 大政 直美
大阪市障がい者就業・生活支援センター	発達障がい者就業支援 コーディネーター 佐藤 桃子
サテライト・オフィス平野	所長 井上 宜子
大阪市福祉局 障がい者施策部 障がい福祉課	担当係長 和田 修治
大阪LD親の会「おたふく会」	副代表 溝上 久美子
大阪自閉スペクトラム症協会	理事 福田 啓子
大阪市立心身障がい者リハビリテーションセンター 相談課（発達障がい者支援グループ）	担当係長 乙武 亜矢子

全委員 18 名

令和元年度「切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくり
～情報共有ツールを活用した仕組み～」事業報告書

令和2年3月
大阪市

1 事業要旨

本事業は、発達障がいのある当事者・保護者と支援者間、各分野の支援者間で個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」の作成を検討するとともに、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引継ぎが行える仕組みの構築を図ることを目的としている。

これまでの取組みとして、平成 29 年度に、ライフステージの移行時や支援機関（者）等が変わる際に引継ぎが行われていない（行われている）状況と原因を明らかにするために、都道府県・政令市に情報共有ツールの作成状況・活用状況等の調査を行った。平成 30 年度は、本人、保護者、関係機関等を対象に情報共有ツールの活用状況及び支援の引継ぎに必要な情報等の調査を行った。

令和元年度の取組みとして、平成 29・30 年度に実施した他都市、本人、保護者、関係機関等へのアンケート調査結果の分析を行った。アンケート調査は選択肢形式と自由記述形式を並行して行っており、情報共有ツールの活用希望等について選択式形式で尋ねたところ、保護者・関係機関等とも回答に共通した傾向がみられたが、自由記述の回答には、選択肢形式では現れないより具体的な内容が記載されていたり、調査者が見落としていた視点について記載されていることから、選択式形式の回答のみではより具体的ニーズが十分に把握できない可能性がある。そのため、情報共有ツールの主な利用者となる保護者を中心に自由記述欄の回答分析を行い、情報共有ツールやライフステージを通じた切れ目のない支援の引継ぎが行える仕組みづくりの内容検討の一助とする。

分析を行った結果、各ライフステージを通じて情報共有ツールを利用しているのは保護者であり、保護者調査において情報共有ツールが「役立った」と回答した人は約 80%であったことから、情報共有ツールは有効であるといえる。

また、保護者へのアンケート調査の自由記述欄の回答を「ライフステージに応じた情報提供が必要」、「保護者と専門分野の異なる支援者間での理解・共有の困難性」、「環境変化の場面での困難性と情報共有ツールの必要性」、「情報共有ツールは啓蒙活動の機能もあわせ持つ」、「情報共有ツールの具体的な内容」の 5 項目に分析を行った。この分析をもとに情報共有ツールを活用した支援の引継ぎが必要な「対象時期」、情報共有ツールの書式や項目などの「内容」、作成にあたって保護者への「支援」、支援者への「普及」の検討を行ったところ、保護者と支援者等といった立場の異なる者が理解しあい、活用できる具体的な引継ぎの仕組みづくりの実現には「情報共有ツールの作成」「情報共有ツールの普及」の 2 点が必要であると考えられる。

保護者調査の回答者のうち、本人の年齢が小学生以下の人は約 77%であったことから、まずは幼児期から学齢期への「就学」において引継ぎがスムーズにいくことを目的とした情報共有ツールを作成し、令和 2 年度においては、作成した情報共有ツールを保護者等に試用してもらい、試用後は試用者へのアンケートを実施し効果測定を行ったうえで使用上の意見を分析し、反映させるなどより使いやすいものを目指すとともに、情報共有ツールの普及啓発活動を図っていく予定である。

2 事業背景

平成 29 年 1 月総務省による「発達障害者支援に関する行政評価・監視の結果に基づく勧告」内容のひとつに「適切な支援と情報の引継ぎ」が挙げられている。この中では進学先への文書等による確実な情報の引継ぎの重要性が特に示されているが、その重要性は「支援機関及び支援者が変わるとき」「新たな関係先（医療機関・行政等）を初めて訪れるとき」など地域生活に関わる様々な場面での情報共有が必要である。

大阪市が平成 28 年度に実施した「障がい者等基礎調査」（大阪市発達障がい者支援センター利用者・発達障がい児専門療育機関利用者対象）によると、「日常生活で障がいによって困っていること」としては「自分の思いを伝えること、まわりとのコミュニケーションのとりかた」が 76.9%のほか、「人との関わりが苦手になる」が 42.5%など、自分自身の経過状況や思い（ニード含む）の共有が得にくいと考えている方が多いことがうかがえる。また、「一般就労につながったと思うこと、または一般就労するのに必要だと思うこと」としては「自分の障がいや特性を理解し配慮してもらえる職場との出会い」が 51.9%、「一般企業などで働き続けるために必要と思うこと」としては「職場の中に障がいや特性に対する理解があること」が 62.5%と、周囲から適切な理解や支援があることが必要だと考えている方が多いことがうかがえる。

支援情報共有等についての大阪市の取組み経過としては、平成 21 年度から大阪市発達障がい者支援センター「エルムおおさか」において「発達ノート」（A6 版冊子）を交付してきた。

「発達ノート」は本人や家族、支援者が、特性や支援経過を記載し、相談機関に行くときや初めての人と接するときに提示することで、周囲の理解が得やすくなり、適切な支援を受けるための一助となるよう作成したものである。

教育相談（こども相談センター）においては、発達障がいのある幼児が周囲から適切な理解や支援をうけられるよう、就学する小学校や支援者（機関）等に提示する「サポートブック」の作成に関する助言指導を実施している。

加えて、本市では、乳幼児期から小学校低学年頃までについては、早期発見から早期支援の支援システムの中で情報共有が行われている状況となっている。

一方、思春期以降成人期にかけては、進学、就職等ライフステージの移行が度々発生する時期であるが、支援システムの不十分さと同様に情報の共有化が図りにくい状況である。

本市の発達障がい者支援施策の検討の場である大阪市障がい者施策推進協議会発達障がい者支援部会においても、「幼児期～就学時に取組まれている情報共有（サポートブックの作成等）が、中学・高校・大学進学、就職時などの思春期～成人期においても、スムーズに実施されるようなツールや仕組みを検討する必要がある。」との意見を受けている。

3 事業目的

当事者・保護者と支援者間、または医療、保育、福祉、教育、就労等の各分野の支援者間で個々の発達障がいの特性や支援に関する情報、ニーズ等の共有がスムーズに行える「情報共有ツール」の作成を検討するとともに、ライフステージを通じた切れ目のない支援の引継ぎが行える仕組みの構築を図る。

4 これまでの取組

(1) 平成 29 年度 of 取組

ライフステージの移行時や支援機関（者）等がかわる時に、「発達障がい of 特性」「ニーズ」「支援 of 方向性」などの引継ぎが適切に行われていない（行われている）状況と原因を明らかにするために、各自治体における「サポートブック」「サポートファイル」等の情報共有ツールの作成状況・活用状況等の調査（以下、「他都市状況 of 調査」という。）及び医療、福祉、教育、就労等の各関係機関との意見交換を行った。

ア 他都市状況 of 調査概要

（ア）調査方法 電子メールによる調査

（イ）調査対象 全都道府県、全政令市

（ウ）配布数 66

（エ）総回収数 69（1 自治体につき 2 機関から回答があったところがある）

（オ）調査期間 平成 30 年 3 月

イ 他都市状況 of 調査結果

（ア）情報共有ツール（サポートブック等） of 作成状況

情報共有ツール（サポートブック等）を作成しているのは、都道府県の 55.3%、政令市の 81.8%であった。配付対象者について、希望者全員に配付しているのは、都道府県の 46.2%、政令市の 66.7%、診断のある方及び支援者が必要とした方に配付しているのは、都道府県の 33.3%、政令市の 23.8%、ホームページからダウンロードによる配付をしているのは、都道府県の 36.8%、政令市の 30.8%であった。

【作成状況】

		あり	なし	全体
都道府県	回答数	26	21	47
	割合（%）	55.3	44.7	100
政令市	回答数	18	4	22
	割合（%）	81.8	18.2	100

【配付対象者】

		希望者全員	診断のある方 (及び家族)	支援者が必要とした方 (及び家族)	その他	全体
都道府県	回答数	18	3	10	8	39
	割合 (%)	46.2	7.7	25.6	20.5	100
政令市	回答数	14	1	4	2	21
	割合 (%)	66.7	4.8	19.0	9.5	100

【配付方法・機会】

		ホームページからダウンロード	紙媒体で希望者に配付	診断時に医療機関で配付	健診時に配付	入学（園）説明会時に配付	障がい者手帳申請時に配付	障がい福祉サービス利用申請時に配付	相談機関における相談時に配付	その他	全体
都道府県	回答数	21	14	0	2	4	2	3	2	9	57
	割合 (%)	36.8	24.6	0	3.5	7.0	3.5	5.3	3.5	15.8	100
政令市	回答数	16	11	1	3	5	1	0	10	5	52
	割合 (%)	30.8	21.2	1.9	5.8	9.6	1.9	0	19.2	9.6	100

(イ) 情報共有ツール（サポートブック等）の活用状況

情報共有ツール（サポートブック等）の活用があまり進まない、進んでいない理由について自由記述で聞いたところ、以下のような回答があった。

- ・活用することのメリットが周知されていない。
- ・個別の教育支援計画・個別の指導計画との併用の意義や利用の仕方が整理されていない。
- ・支援者にとって使いやすい様式になっていない。（作成にとどまり活用まで至っていない）
- ・切れ目のない支援のための引継ぎに重要なツールとして位置づいていない。
- ・福祉や教育といった分野ごとに様式や活用の仕方が違うので、扱いにくい。

- ・人事異動等に伴い、支援ファイル等の取組みについて引継ぎが十分に行われていない。
- ・委託先が知的障がい者の保護者会であるため、他の障がい（身体、精神）への広がり
が充分とはいえない状況にある。
- ・「親亡き後」が遠い将来のことであるという認識のある保護者にとっては、記入が進み
にくい傾向にある。
- ・高校や大学、企業などに在籍している対象者の活用はあまり進んでいない。その理由
としては、ケース連携や庁内外の会議を通じて接する機会の少ないこと、相談主体が
保護者から本人に移行していく時期とも重なり、誰とどのように作成していくか、情
報を共有していく範囲をどうしていくか等、難しい面がある。

（ウ）支援の引継ぎに関する取組み

支援の引継ぎを進めるために行っている取組みについて自由記述で聞いたところ、以下
のような回答があった。

- ・発達障がい者支援センターが開催する支援者向け研修にて、ライフステージ毎の支援
テーマを扱った研修会を毎年開催。幼稚園・保育園（保育士等）と小中学校等の教育
機関（教員等）を対象とし、乳幼児期と学齢期の発達障がい支援にかかるチェーンレ
クチャー（研修会）を開催する等、両者が机を並べて学ぶ機会を提供した年度もあ
る。
- ・個別ケース会議等へ参加。各担当課・関係機関との定期的な連絡会の開催。
- ・就学前職員、小中学校教職員に対して、「本人・保護者への活用方法の説明」の仕方を
説明。
- ・サポートファイル普及のために、保護者会や関係者・保護者向けの発達障がい等の研
修で説明。
- ・サポートファイル作成を勧める支援者等にサポートファイルの意義を理解してもらう
ために、支援者向けの研修会や教員の研修で使う研修資材（DVD）を作成。併せて保
護者向けの紹介 DVD も作成。
- ・情報の引継ぎを進めるためにモデル事業として5歳児健診から学校へつなぐ仕組みづ
くりに取り組む。
- ・「個別的教育支援計画・個別の指導計画作成の手引き」の作成と市立学校への周知、研
修の実施。

情報共有ツールを活用し、支援の引継ぎを円滑に進めるために必要なことについて、自
由記述で聞いたところ、以下のような回答があった。

- ・支援者がサポートファイルのメリットを十分理解し、支援が必要な対象者に対し、各機関でサポートファイルの所持を確認し、支援の参考とするため提示を促す体制を作る。
- ・サポートファイルのメリットの周知や、有効な使用例等について、情報提供を図っていく必要がある。
- ・様式等が複雑ではなく、本当に必要なことを伝え共有できるように精選する
- ・個別の教育支援計画や個別の指導計画と共有できる部分などを精査し、作成への抵抗感をやわらげ気軽に作成・活用できる方法を探る。
- ・作成・活用・保管方法、役割等のマニュアル的なものを準備する。
- ・何かツールを作るときにはそのツールに関わる機関は全て検討に参加する（特に教育分野）。
- ・検討するときには、様式だけではなく、活用方法（だれが書くのか、ライフステージが変わるときに誰が次に持っていくのか、どう活用するのかなど）も併せて検討し、市町村内の周知事項にする。
- ・市町村主催で関係課（保健、子育て、教育、福祉）と、保健師、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等を対象とした多職種による合同研修会の開催。定期的に、複数年続けて開催することで、引継の必要性や方法について共有すること。
- ・書き方を支援する体制や、支援者側も積極的に活用する姿勢が必要。
- ・就学期においては就学支援シートや個別の教育支援計画の作成、児童発達支援や放課後等デイサービスを利用する場合は、障がい児支援利用計画等の作成があり、これらと一体的に活用されることで、普及の幅が広がる。

（２）平成 30 年度の取組み

多角的な視点からの状況把握と原因分析が必要不可欠であることから、発達障がいのある方がライフステージにおいて関わる次の支援機関に対して、実際に支援に携わる現場担当者の意見を広く収集し、あるべき「情報共有ツール」の姿を分析した。

そのため、当事者、保護者、医療、保健、保育、教育、福祉、就労、相談支援機関、障がい福祉サービス事業所等の関係機関の現場担当者を対象に、情報共有ツールの活用状況及び支援の引継ぎに必要な情報等について調査を行った。

ア 調査対象、調査方法、回収数

調査票	調査対象	調査方法	回収数
本人用	本人	エルムおおさかの相談支援・機関支援・研修・講座等を通じて関わりのある方を中心に調査回答を依頼。 郵送、電子メール、エルムおおさかのHPから回収。	7
保護者用	保護者		101
事業所等用	障がい福祉サービス等事業所 企業 医療機関 専門学校・短大・大学 私立保育園 公立保育所 児童養護施設	各所管部局を通じて、発達障がいのある方の支援に携わる支援者の方に調査回答を依頼。 電子メール、エルムおおさかのHPから回収。	150
市教育機関用	市立幼稚園、小、中、高		28
府立支援学校用	府立支援学校		8
公共機関用	24区保健福祉センター (子育て支援室) こども相談センター(中央)		43
合 計			337

イ 保護者調査の結果

本人の年齢については、乳幼児が 54.9%、小学校が 22.5%、中・高～短大・大学が 4.9%、成人（40 歳未満）が 16.6%、成人（40 歳以上）が 1.0%であった。

情報共有ツールの使用状況について、17.8%の保護者が使用したことがあり、そのうち 80.0%の保護者が役立ったと回答している。

就学・進学・就職・入校・通所開始など生活場面が新たな環境に移る時に、本人や保護者の承諾を得たうえで、前所属機関から次の機関への引継ぎや情報提供などがあった保護者は 19.8%であり、そのうち 83.3%の保護者が役立ったと回答している。

【本人の年齢】

	乳 幼 児	小 学 校	中 ・ 高	専 門 学 校	短 大 ・ 大 学	成 人 (三十歳未満)	成 人 (三十歳以上)	成 人 (四十歳以上)	全 体
回答数(人)	56	23	4	0	1	4	13	1	102
割合(%)	54.9	22.5	3.9	0.0	1.0	3.9	12.7	1.0	100

【情報共有ツールの使用状況】

	あり	なし	全体
回答数（人）	18	83	101
割合（％）	17.8	82.2	100

【情報共有ツールの役立ち度】

	非常に役に立った	役に立った	少し役に立った	役立たなかった	全体
回答数（人）	6	26	5	3	40
割合（％）	15.0	65.0	12.5	7.5	100

【生活場面が新たな環境に移る際に、前所属機関から次の機関への引継ぎ状況】

	あり	なし	未回答	全体
回答数（人）	20	78	3	101
割合（％）	19.8	77.2	29.7	100

【引継ぎの役立ち度】

	非常に役に立った (100%)	役に立った (80%)	役立った (50%)	少し役立った (30%)	役立たなかった (0%)	全体
回答数（人）	5	7	8	2	2	24
割合（％）	20.8	29.2	33.3	8.3	8.3	100

ウ 本人・保護者・関係機関等調査の結果

決まった書式の情報共有ツールがある場合の活用については、保護者は 95.6%、事業所等は 96.0%、市教育機関は 96.4%、府立支援学校は 75.0%が希望している。保護者で活用を希望しているうちの 43.0%が活用方法や書き方がわからないと回答している。

【情報共有ツールの活用希望】

		活用したい	活用したいが、活用方法がわからない	活用したいが、書き方がわからない	活用したくない	未回答	全体
保護者	回答数（人）	60	37	12	0	5	114
	割合（％）	52.6	32.5	10.5	0.0	4.4	100

		活用したい	活用したくない	既に活用している	全体
事業所等	回答数（人）	144	5	1	150
	割合（％）	96.0	3.3	0.7	100
市教育機関	回答数（人）	27	1	0	28
	割合（％）	96.4	3.6	0.0	100
府立支援学校	回答数（人）	6	0	2	8
	割合（％）	75.0	0.0	25.0	100

4 令和元年度の取組み

令和元年度においては、平成 29・30 年度に行った調査の結果をふまえ、共有すべき「情報」「支援内容」を整理し、「情報共有ツール」の内容の検討を行った。また、本市ニーズに即した切れ目のない支援の引継ぎのための「仕組み」の検討を行った。

（１）アンケート調査結果の分析の実施

平成 30 年度に実施した本人・保護者、関係機関等へのアンケート調査は、複数の選択肢から当てはまるものを選ぶ「選択肢形式」と、思ったことや具体例を自由に記述する「自由記述形式」を併用して行った。

自由記述の回答には、より具体的な内容が記載されていたり、調査者が見落としていた視点について記載されていることから、選択式形式の回答のみでは、より具体的ニーズが十分に把握できない可能性がある。

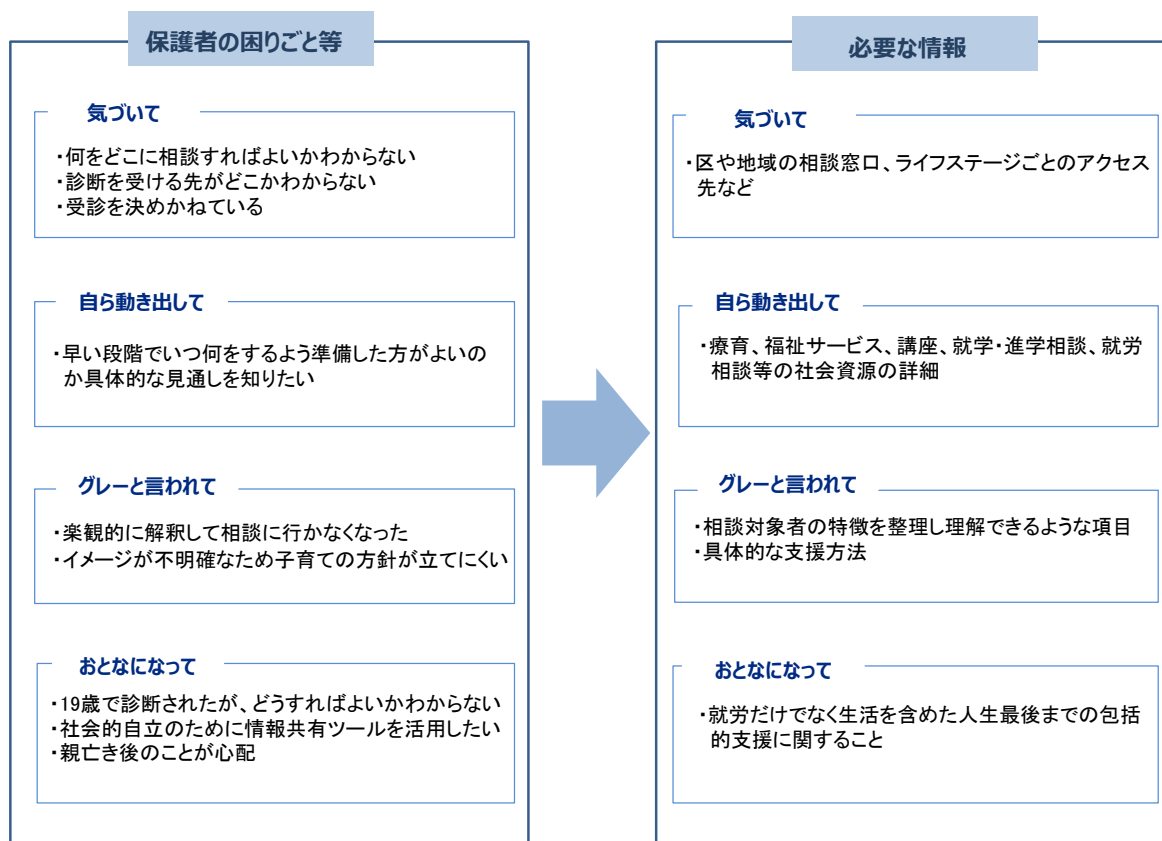
情報共有ツールの活用希望、事前に情報提供がなかった場合に困ったこと等、生活場面が新たな環境に移る時に引継ぎの際にどのような内容・事項等の情報があれば役立つと思うかについて選択肢形式で尋ねたところ、保護者・関係機関等とも回答に共通した傾向がみられた。

そのため、情報共有ツールの主な利用者となる保護者を中心に、自由記述欄の回答分析を行

い、情報共有ツールの内容検討の一助とする。

ア ライフステージに応じた情報提供が必要

保護者へのアンケート調査の自由記述欄の回答分析から、ライフステージの中で、保護者の困りごと及び困りごとに応じた必要な情報が明らかになった。



イ 保護者と専門分野の異なる支援者間での理解・共有の困難性

入園、就学など環境が変化する場面では、医療・福祉・教育の支援者間で情報の引継ぎが必要となる。また、専門性が異なる支援者間では、情報共有が円滑に進まず、本人の特性への理解・共有が困難であることが明らかになった。自由記述欄の主な意見は以下のようであった。

- ・事前に情報共有していただくことで新たな環境でも続きからの支援をスタートしてもらえる。保育園入園時、区の担当者が本人の特徴や支援方法などを説明してくださっていたので、比較的スムーズに保育園生活をスタートできた。
- ・周知された「大阪市の公式情報共有ツール」があれば、公に活用され、支援者や先生方との情報共有がスムーズになるのではないかと思います。
- ・入園時だけでなく、懇談の時にも具体的な目標・経過を確認できる書式の情報共有ツ

ールを参照しながら話せると、先生方が情報を共有して実施していることや本人の様子がお互いに共有しやすいのではないかと思います。

- ・周知された「大阪市の公式情報共有ツール」があれば、公に活用され、支援者や先生方との情報共有がスムーズになるのではないかと思います。
- ・個人情報保護の問題はあると思うが、公の機関間や公の機関と他の支援機関との間で情報を共有しておいてもらえると、相談先が変わる時に一から説明せずにすむので助かる。
- ・進学にあたり、書面だけでなく、関係者で話し合い、在籍園と入学先での本人の様子を見る、という形で引継ぎをしてもらえたので、入学後にスムーズに支援してもらえた。
- ・進学時などに障がい特性、得意・不得意、興味のあることなどを伝えておくことで、本人も安定していたように思える。
- ・「大阪市の公式情報共有ツール」があれば、通常学級在籍児も進学時の引継ぎに活用できるのではないかと思います。
- ・デイサービスなどの本人が関わっている機関については、保護者からの情報でしか知ることができない。

ウ 環境変化の場面での困難性と情報共有ツールの必要性

ライフステージ（一生）の中で生活環境が変化する場面は多く、その都度本人の特性の説明が必要となる。また、よりスムーズな情報共有に役立ち、ライフステージを通して使える情報共有ツールが望まれていることが明らかになった。自由記述欄の主な意見は以下のようであった。

- ・就学・進学、児童デイ、習い事、スペシャルオリンピック等いろいろな場面で役に立った。
- ・就学・進級など環境が変わるたびに、相談先が変わるたびに、一からいちいち口頭で説明しなければいけなかったが、サポートブックを活用することで説明が楽になった。
- ・支援者が変わってもスムーズにサポートしてもらえる可能性が高いと思う。
- ・事前に情報提供があれば、支援体制がとれ、適切な支援ができる。
- ・ライフステージを通じて使い続けられるものが望ましい。

エ 情報共有ツールは啓発活動の機能もあわせ持つ

情報共有ツールは、発達障がいへの啓発の要素を多く含んでいることが明らかになった。自由記述欄の主な意見は以下のようであった。

- ・情報共有ツールの使い方の勉強会を開催して、保護者だけでなくいろいろな立場の方に普及してほしい。
- ・「公式の情報共有ツール」を学校や地域（回覧板など）、区の母親学級などで周知していただくことで、発達障がいについて周囲の方にカミングアウトしやすくなるのではないかなと思う。
- ・具体的な支援方法が盛り込まれていると助かる。

オ 情報共有ツールの具体的な内容

情報共有ツールは、誰にでもわかりやすい表現、作成・活用がしやすい書式・量が求められている。また、作成の際に専門家の助力が必要なことが明らかになった。自由記述欄の主な意見は以下のものであった。

- ・作成の仕方、使い方について、先生や支援者から助言を得たい。
- ・なるべく利用する人がわかりやすい表現やことば（専門用語は難しく、理解しにくい）。
- ・統一された形式・項目であれば、誰でも必要な情報を網羅することができる。
- ・大きさはA4サイズが望ましいが、携帯するにはA6サイズがよい。
- ・ページ数が多すぎると記入や確認するのが大変。
- ・形・量は、年々増えていってもよいと思う。ファイルなどにその時必要な情報を集約したり、パソコンで管理し、必要に応じてプリンアウトするという方法も便利ではないか。

（２）分析・考察

各ライフステージを通じて情報共有ツールを主に利用しているのは保護者である。保護者調査において、情報共有ツールが「役立った」と回答した人は約80%であったことから、情報共有ツールは有効であるといえる。

情報の共有や引継ぎは、就学・進学だけではなく、障がい福祉サービス事業所、習い事、行事など生活場面が新たに変わる場面で利用することになるが、保護者調査の回答者のうち、本人の年齢が小学生以下の人は約77%であったことから、幼児期から学齢期に向けて引継ぎがスムーズにいくことを目的とした情報共有ツールを作成し、それを活用することによって、保護者と学校などの支援者が情報を共有できることが期待できる。

情報共有ツールの内容検討として、保護者の困りごと等は、保護者にとって必要な情報であることがわかったことから、保護者にとって幼児期に必要な情報や今後に向けて知りたい情報をまとめて掲載するようにする。また、保護者や幼稚園で必要な項目と、学校で必要な項目が異なるため、項目は、就学先で情報を参考にできるように学校生活に必要な項目に絞ることが、保護者と専門分野の異なる支援者間での理解・共有を図ることにつながる。具体的な内容として、書式は、主として項目を選択方式とし、記入量を少なく、表現方法を平易で分かりやすく、

保護者が作成しやすいものにする、内容は、本人の特徴を把握しやすく、伝えやすいものにする、また、本人の特徴に応じた支援の工夫例を記載できるようにする。

また、情報共有ツールは、発達障がいへの啓発の要素を多く含むことから、主な利用者である保護者を対象に作成の仕方や使い方の勉強会を開催するほか、ホームページに情報共有ツールとその作成の仕方や事例などを掲載し普及の一助とする。地域連絡協議会など、支援者に直接アナウンスする機会を確保し、支援者に広くアプローチすることにより、保護者が作成の際に支援者が作成の手助けができるものとする。

保護者と支援者等といった立場の異なる者が理解しあい、活用できる具体的な引継ぎの仕組みづくりの実現には、次の2点が必要であると考えられる。

ア 情報共有ツールの作成

情報共有ツールを作成し、活用することによって、保護者と学校などの支援者が情報を共有し、本人が就学时によりスムーズに学校生活をスタートできることを目指す。

「就学」という幼児期から学齢期の移行期を想定し、発達障がい児の保護者が理解及び作成しやすい形（項目の選択方式、平易な表現、少ない記入量、電子媒体と印刷物）の情報共有ツールを作成する。

イ 情報共有ツールの普及

情報共有ツールを広く市内の関係機関に知ってもらうために、支援者への普及啓発活動を実施し、保護者と支援者が情報を共有できる状況を促していく。

令和2年度、大阪市においては作成した情報共有ツールを保護者に試用してもらい、試用後は試用者へのアンケートを実施し効果測定を行う。使用上の意見を分析し、改善するなどより使いやすいものを目指すとともに、情報共有ツールの普及啓発活動を推進していく予定である。

（3）令和元年度 企画・推進委員会の実施状況

開 催 日	検 討 内 容
令和元年 9 月 30 日	議題 （１）発達障がい者支援センター事業実施状況について （２）発達障がい者支援施策の実施状況等について （３）その他 ・2019年度大阪市障がい者等基礎調査について ・切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくりについて
令和2年 3 月 23 日 （新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止）	議題（予定） （１）発達障がい者支援センター事業実施状況について （２）発達障がい者支援施策の実施状況等について （３）切れ目のない支援の引継ぎの仕組みづくりについて （４）その他

（４）成果の公表実績・計画

大阪市障がい者施策推進協議会発達障がい者支援部会（令和元年 9 月 30 日開催）にて、本人・保護者・関係機関等へ実態調査分析を報告し、資料を大阪市役所ホームページにて公開を行っている。

また、情報共有ツールは令和 2 年度に開催予定の大阪市障がい者施策推進協議会発達障がい者支援部会にて報告・検討を予定している。

名 前（愛称など）

「就学編」情報共有ツール（サポートブック） 試用版（案）

- ・このサポート・ブックは【名 前】が初めての学校生活をよりスムーズにスタートするために作成しました。
- ・学校や支援者の先生方と【名 前】が困った時の工夫の仕方を情報共有することで、それぞれの場所でのより良い支援が実現するものと思っています。
- ・先生方にも保育園や学校で発見したことを書き込んでいただけると嬉しいです。

プロフィール

年 月 日作成

名 前：

生年月日： 年 月 日 歳 カ月

家 族：

住 所： 大阪市 区

連 絡 先： 携 帯 - -

自 宅 06 - -

医療機関：

相談先・支援機関：

診断名 ： なし・あり ⇒

アレルギー： なし・あり ⇒

服 薬 ： なし・あり ⇒

配慮事項 ： なし・あり ⇒

発達・知能検査：なし・あり ⇒

障がい手帳： なし・あり ⇒

いいところリスト

☆できること・がんばっていること

- ・
- ・
- ・

☆特技・とてもくわしいこと

- ・
- ・
- ・

＊先生と一緒にたくさんいいところ（具体的な行動）を見つけてください。

好きなこと・落ち着くこと

☆好きなこと

☆落ち着くこと

- ・場所：
- ・もの：
- ・活動：
- ・食物：

苦手なこと・不安になりやすいこと

- ・場所：
- ・場面：
- ・ひと：
- ・食物：
- ・その他：

発達の特徴

当てはまるものに☑をつけてください。 心配な分野の傾向がわかります。

1. ことば、コミュニケーションの心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
2. 変化への適応の心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
3. 社会性での心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
4. 多動性・衝動性・不注意	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
5. 学習上の心配	☐ 聞く ☐ 話す ☐ 読む ☐ 書く ☐ 計算する ☐ 推論する ☐ なし		
6. 運動・姿勢の心配	☐ バランスが悪い	☐ 不器用	☐ 姿勢がくずれやすい
7. 生活面での心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし
8. 有効な情報呈示方法	☐ 視覚優位	☐ 聴覚優位	☐ 両方 ☐ わからない
9. 感覚の過敏性	☐ 視覚 ☐ 聴覚 ☐ 触覚（特に顔） ☐ 味覚 ☐ 嗅覚 ☐ その他 ☐ なし		
10. 知的の心配	☐ とてもある	☐ ある	☐ なし

具体的には…

当てはまるものに☑を記入してください。 困っている分野の傾向がわかります。

お助けアイデアは、具体的には6頁をご覧ください。

具体的には	お助けアイデア
☐ 1 困った時に助けを求めることができない	工夫1
☐ 2 話す内容が年齢にくらべて幼ないように思う	
☐ 3 一方的な会話が早い	
☐ 4 人の話を聞いて理解するのが苦手 ～一斉指示は無関係と思いがち	工夫2
☐ 5 複数の指示を覚えるのが苦手	工夫3

具体的には	お助けアイデア
☐ 6 見て理解することが得意 ~禁止の指示は見た方がわかりやすい	工夫4
☐ 7 予定の変更を受け入れにくい	工夫5
☐ 8 新しいもの、場所、人を受け入れにくい ~環境の変化に敏感	工夫6
☐ 9 一つのことにあまりやすい ~興味：車、こだわり：勝敗、順番、道順	
☐ 10 ひとり遊びが好き	配慮1
☐ 11 ルールや社会的な約束ごとがわかりにくい	
☐ 12 思い通りに事が進まなかった時、イライラが高じやすい	
☐ 13 思ったことを悪気なく口にして、友達とケンカになることがある	工夫9
☐ 14 集団で行動することが苦手	配慮1
☐ 15 いつもおしゃべりしている	
☐ 16 じっとすわっていることが苦手 ~立ち歩いてしまう	
☐ 17 気が散りやすく先生の話聞きのがす、聞き間違える	
☐ 18 忘れ物・なくし物が多い	
☐ 19 行事等でいつもと違う雰囲気、テンションが上がり、多動になる	
☐ 20 一つのことをやり続けることが苦手	
☐ 21 興味の対象が次々に変わる	
☐ 22 正しい発音ができにくい	

具体的には	お助けアイデア
☐ 23 文字を読む、書くことがとても苦手	
☐ 24 数える、計算することがとても苦手	
☐ 25 絵を描くことがとても苦手	
☐ 26 遊具であそぶこと（縄跳び、鉄棒、一輪車など）が苦手	
☐ 27 姿勢を保つのが苦手	工夫10
☐ 28 不器用	
☐ 29 トイレに支援が必要	
☐ 30 整理整頓、準備、片づけ（登下校時や授業の時等）が苦手	工夫11
☐ 31 給食を食べる時に支援が必要	
☐ 32 偏食がある	配慮2
☐ 33 ひとりで着替えができてにくい	
☐ 34 スピーカー等の大きな音が苦手で行事に参加できてにくい	工夫12
☐ 35 感覚の敏感さのために難しい活動（のりづけ、プールなど）がある	
☐ 36 知的な遅れがある	
☐ 37 その他（ ）	

☑がついた番号	数	困っている分野の傾向
① ② ③ ④ ⑤ ②②	／ 6	ことば、コミュニケーションの心配
⑦ ⑧ ⑨	／ 3	変化への適応の心配
⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭	／ 5	社会性での心配
⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑	／ 7	多動性・衝動性・不注意の心配
㉒ ㉓ ㉔ ㉕	／ 4	学習上の心配
㉖ ㉗ ㉘	／ 3	運動・姿勢の心配
㉙ ㉚ ㉛ ㉜	／ 4	生活面での心配
⑥ ⑰	／ 2	有効な情報呈示方法
㉚ ㉛ ㉜	／ 3	感覚の過敏性
㉞	／ 1	知的の心配

お助けアイデアのいろいろ

工夫1：授業中、助けてほしいことや質問があるときにヘルプ（☆）

カードを机の上におく⇒先生が順番に来てくれるシステム

工夫2：名前をよぶなどして注意喚起してから一斉指示⇒個別に確認

工夫3：板書、メモなど指示内容を見て再確認できるように呈示する。

工夫4：禁止の指示も図やマーク、短文等で見える形で呈示する。

工夫5：あらかじめ見える形でスケジュールを呈示しておき、その変更があるときも見える形で伝えると気持ちを切り替えやすい。

工夫6：あらかじめ初めての場所・活動・ひとについての情報を伝えておく。可能であれば予行演習する。不安になった時にはどうするかも話し合っておく（別室に落ち着きに行く、等）。

工夫7：社会的な約束事・ルールを明記して伝える。

工夫8：イライラしてきたときは静かで落ち着く場所へ誘導する。

工夫9：マンガで相手の気持ちを伝える、NGワードを表に書いて学ぶ。
トラブルの場面では各自に相手の気持ちを代弁して伝える。

工夫10：定期的に姿勢をチェック、姿勢保持しやすい座布団などを使う。

工夫11：仕切りなどの片づけツールやチェックリストを活用する。
整理整頓された机の写真を見本として示す。

そうじの方法や準備・片付けの具体的な手順を書き出す。

工夫12：運動会でのアナウンス方法を変える。

配慮1：休み時間に教室で本を読むなどひとりで過ごす時間を確保。

配慮2：苦手な食べ物は量を減らしてトライする、本人の申請があれば最初から盛り付けないようにしていただけると有難いです。

***項目チェック⇒具体例がわかるように全項目のアイデアを記載する予定です。**

先生方からの情報

☆保育所：

☆

大阪市の就学相談

☆就学相談の窓口 … 地域小学校

・インターネット … にぎわいネット

「障がいがあるお子さんの就学相談情報」

<http://www.ocec.jp/shidouubu/index.cfm/9,0,15,html>

・電話 … 大阪市教育局指導部 インクルーシブ教育推進担当
支援学校等への就学相談 Tel. 06-6327-1017

参考資料

いろいろな工夫例の写真など

検査結果のまとめ

検査の種類、実施機関、検査日、
結果（IQ、DQ、強味・弱み）、
検査者・主治医の意見・助言、 など

エルム 太郎くん

「就学編」情報共有ツール（サポートブック） 試用版（案）

- ・このサポート・ブックはエルム 太郎くんが初めての学校生活をよりスムーズにスタートするために作成しました。
- ・学校や支援者の先生方とエルム 太郎くんが困った時の工夫の仕方を情報共有することで、それぞれの場所でのより良い支援が実現するものと思っています。
- ・先生方にも保育園や学校で発見したことを書き込んでいただけるとうれしいです。

プロフィール

令和●年△月■日作成

名 前： エルム ^{たろう} 太郎

生年月日： 平成 ○○年 ○月 ○○日 5歳 7ヵ月

家 族： 父、母、兄（10歳）、祖母

住 所： 大阪市 ○○区△△ X丁目○番△号

連絡先： 携 帯 母 XXX - XXXX - XXXX （24時間OK）

自 宅 06 - XXXX - XXXX

医療機関： ○○医院 △△Dr（風邪など） Tel.

○○発達クリニック □□Dr（発達相談） Tel.

相談先・支援機関： ○○区子育て支援室 △△さん Tel.

○○児童発達支援センター △△さん Tel.

診断名 : なし・あり ⇒ 自閉スペクトラム症（ASD）

アレルギー： なし・あり ⇒ ほこり、花粉

服 薬 : なし・あり ⇒ 花粉症の薬

配慮事項 : なし・あり ⇒ 体温調節が苦手なため夏期は特に配慮が必要

発達・知能検査：なし・あり ⇒ IQ 120（ WISC-IV ）

障がい手帳： なし・あり ⇒ 精神障がい者保健福祉手帳3級

いいところリスト

☆できること・がんばっていること

- ・早起きは得意です。毎朝 7 時に起きて保育所に通っています。
- ・体力には自信があります。遠足で 3 km 歩きとおしました。
- ・機械ものは大好きです。説明書を読まなくても操作方法がわかります。

☆特技・とてもくわしいこと

- ・興味あることについての情報収集力はすごいです。車が好きなので、一目で車種がわかります。電車や宇宙にも興味があります。
- ・水が大好きなので、お風呂掃除や庭の水まきなどのお手伝いをしています。

*先生と一緒にたくさんいいところ（具体的な行動）を見つけてください。

好きなこと・落ち着くこと

☆好きなこと ゲーム（動物の森、RPG）、車、電車、宇宙

愛犬ポチとふれあうこと

☆落ち着くこと

- ・場所：所長室、せまくて静かな所（押し入れ等）⇒小学校内では…
- ・もの：タオルハンカチ、ふわふわ毛糸玉、ハンディ扇風機、他
- ・活動：自由帳に絵を描く、地球や乗り物の本や辞書を見る、他
- ・食物：お茶、おにぎり、他

苦手なこと・不安になりやすいこと

- ・場所：混雑したところ、音の響きやすいところ、初めて行くところ
- ・場面：予定や人の急な変更、行事（学芸会、参観、避難訓練）
- ・ひと：男の人、声が大きい人、赤ちゃん、初めて会う人
- ・食物：野菜、味の混ざった料理、熱い飲み物
- ・その他：スピーカーの音、運動会のピストルの音、おもちゃの電子音

発達の特徴

当てはまるものに☑をつけてください。 心配な分野の傾向がわかります。

1. ことば、コミュニケーションの心配	☒ とてもある	☐ ある	☐ なし
2. 変化への適応の心配	☒ とてもある	☐ ある	☐ なし
3. 社会性での心配	☒ とてもある	☐ ある	☐ なし
4. 多動性・衝動性・不注意	☐ とてもある	☐ ある	☒ なし
5. 学習上の心配	☐ 聞く ☐ 話す ☐ 読む ☐ 書く ☐ 計算する ☐ 推論する ☒ なし		
6. 運動・姿勢の心配	☒ バランスが悪い	☐ 不器用	☒ 姿勢がくずれやすい
7. 生活面での心配	☐ とてもある	☒ ある	☐ なし
8. 有効な情報呈示方法	☒ 視覚優位	☐ 聴覚優位	☐ 両方 ☐ わからない
9. 感覚の過敏性	☐ 視覚 ☒ 聴覚 ☒ 触覚（特に顔） ☐ 味覚 ☐ 嗅覚 ☐ その他 ☐ なし		
10. 知的の心配	☐ とてもある	☐ ある	☒ なし

具体的には…

当てはまるものに☑を記入してください。 困っている分野の傾向がわかります。

お助けアイデアは、具体的には6頁をご覧ください。

具体的には	お助けアイデア
☒ 1 困った時に助けを求めることができない	工夫1
☐ 2 話す内容が年齢にくらべて幼ないように思う	
☒ 3 一方的な会話が多い	
☒ 4 人の話を聞いて理解するのが苦手 ～一斉指示は無関係と思いがち	工夫2
☒ 5 複数の指示を覚えるのが苦手	工夫3

具体的には	お助けアイデア
☒ 6 見て理解することが得意 ～禁止の指示は見た方がわかりやすい	工夫4
☒ 7 予定の変更を受け入れにくい	工夫5
☒ 8 新しいもの、場所、人を受け入れにくい ～環境の変化に敏感	工夫6
☒ 9 一つのことにあまりやすい ～興味：車、こだわり：勝敗、順番、道順	
☒ 10 ひとり遊びが好き	配慮1
☒ 11 ルールや社会的な約束ごとがわかりにくい	
☒ 12 思い通りに事が進まなかった時、イライラが高じやすい	
☒ 13 思ったことを悪気なく口にして、友達とケンカになることがある	工夫9
☒ 14 集団で行動することが苦手	配慮1
☐ 15 いつもおしゃべりしている	
☐ 16 じっとすわっていることが苦手 ～立ち歩いてしまう	
☐ 17 気が散りやすく先生の話の聞きのがす、聞き間違える	
☐ 18 忘れ物・なくし物が多い	
☐ 19 行事等でいつもと違う雰囲気にはテンションが上がり、多動になる	
☐ 20 一つのことをやり続けることが苦手	
☐ 21 興味の対象が次々に変わる	
☐ 22 正しい発音ができにくい	

記入例

具体的には	お助けアイデア
☐ 23 文字を読む、書くことがとても苦手	
☐ 24 数える、計算することがとても苦手	
☐ 25 絵を描くことがとても苦手	
☒ 26 遊具であそぶこと（縄跳び、鉄棒、一輪車など）が苦手	
☒ 27 姿勢を保つのが苦手	工夫10
☐ 28 不器用	
☐ 29 トイレに支援が必要	
☒ 30 整理整頓、準備、片づけ（登下校時や授業の時等）が苦手	工夫11
☐ 31 給食を食べる時に支援が必要	
☒ 32 偏食がある	配慮2
☐ 33 ひとりで着替えができてにくい	
☒ 34 スピーカー等の大きな音が苦手で行事に参加できてにくい	工夫12
☒ 35 感覚の敏感さのために難しい活動（のりづけ、プールなど）がある	
☐ 36 知的な遅れがある	
☐ 37 その他（ ）	

☑がついた番号	数	困っている分野の傾向
① ② ③ ④ ⑤ ②②	4 / 6	ことば、コミュニケーションの心配
⑦ ⑧ ⑨	3 / 3	変化への適応の心配
⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭	5 / 5	社会性での心配
⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑	0 / 7	多動性・衝動性・不注意の心配
㉒ ㉓ ㉔ ㉕	0 / 4	学習上の心配
㉖ ㉗ ㉘	2 / 3	運動・姿勢の心配
㉙ ㉚ ㉛ ㉜	1 / 4	生活面での心配
⑥ ⑰	1 / 2	有効な情報呈示方法
㉚ ㉛ ㉜	3 / 3	感覚の過敏性
㉞	0 / 1	知的の心配

お助けアイデアのいろいろ

工夫1：授業中、助けてほしいことや質問があるときにヘルプ（☆）

カードを机の上におく⇒先生が順番に来てくれるシステム

工夫2：名前をよぶなどして注意喚起してから一斉指示⇒個別に確認

工夫3：板書、メモなど指示内容を見て再確認できるように呈示する。

工夫4：禁止の指示も図やマーク、短文等で見える形で呈示する。

工夫5：あらかじめ見える形でスケジュールを呈示しておき、その変更があるときも見える形で伝えると気持ちを切り替えやすい。

工夫6：あらかじめ初めての場所・活動・ひとについての情報を伝えておく。可能であれば予行演習する。不安になった時にはどうするかも話し合っておく（別室に落ち着きに行く、等）。

工夫7：社会的な約束事・ルールを明記して伝える。

工夫8：イライラしてきたときは静かで落ち着く場所へ誘導する。

工夫9：マンガで相手の気持ちを伝える、NGワードを表に書いて学ぶ。

トラブルの場面では各自に相手の気持ちを代弁して伝える。

工夫10：定期的に姿勢をチェック、姿勢保持しやすい座布団などを使う。

工夫11：仕切りなどの片づけツールやチェックリストを活用する。

整理整頓された机の写真を見本として示す。

そうじの方法や準備・片付けの具体的な手順を書き出す。

工夫12：運動会でのアナウンス方法を変える。

配慮1：休み時間に教室で本を読むなどひとりで過ごす時間を確保。

配慮2：苦手な食べ物は量を減らしてトライする、本人の申請があれば最初から盛り付けないようにしていただけると有難いです。

*項目チェック⇒具体例がわかるように全項目のアイデアを記載する予定です。

先生方からの情報

☆保育所：

☆

大阪市の就学相談

☆就学相談の窓口 … 地域小学校

・インターネット … にぎわいネット

「障がいがあるお子さんの就学相談情報」

<http://www.ocec.jp/shidouubu/index.cfm/9,0,15,html>

・電話 … 大阪市教育局指導部 インクルーシブ教育推進担当
支援学校等への就学相談 Tel. 06-6327-1017

参考資料

いろいろな工夫例の写真など

検査結果のまとめ

**検査の種類、実施機関、検査日、
結果（IQ、DQ、強味・弱み）、
検査者・主治医の意見・助言、 など**

令和元年度「こころとからだのワークショップ」事業報告書

1 事業目的

発達障がいがある成人期の方たちが小グループで感情やそのコントロール方法、感情とからだのつながり等についてともに学び、からだを動かすことによるリラックス効果や楽しさを体験する。また、自分の得意・不得意について話し合う機会を設定することにより、就労するために大切な「健康維持」や「感情のコントロール」「自己理解」への気づきと日常での工夫実施のきっかけとすることを目指す。

発達障がいがある成人期の方たちの中には、思春期にかけて不登校を経験しそのために性教育を受ける機会を逸しているケースや、不適切な情報を入力し誤解しているケース、知らないうちに被害者になっているケース、性行動はいけないことと思い込んでいるケースも少なくない。人として幸せに生きていくうえで大切なことでありながら、タブー視されがちなテーマの1つである「性」について、講義とワークを通して、系統的に学ぶ機会のない「セクシャリティ」「性教育」について支援者の方々に正しい知識を伝え、適切な「セクシャリティ支援」を考えていただく機会を持つことを目的とする。

2 事業内容

(1) こころとからだのワークショップ

①方法

グループワーク+からだを動かす体験

- ・グループワーク：ワークシート活用による学習、話し合い
- ・からだを動かす体験：深呼吸+ストレッチ、軽スポーツ（ボッチャ、ボウリングなど）

②グループワーク内容

毎回最初に深呼吸とその前後で脈拍測定を実施

- 1回目… 自己紹介、感情学習（よろこび・リラックス）、きっかけカード・楽しいことの本・コピーンググッズの紹介、好きなこと探し
- 2回目… 感情学習（うれしい・リラックスした）（どんな時に・からだの状態）、脳内ホルモンの話、感情修復ツール（きっかけカード：好きなものの写真など）の作成・紹介、コピーンググッズの紹介・体験
- 3回目… うれしいこと日記、感情学習（不安・怒り）（どんな時・からだの状態）、感情修復ツールの作成・紹介、コピーンググッズの紹介・体験
- 4回目… うれしいこと日記、きっかけカードを使ってみた感想、不安を減らすのに役立つ活動、感情修復ツールの作成・紹介、コピーンググッズの紹介・体験
- 5回目… うれしいこと日記、感情修復ツールを使ってみた感想、対人距離ワーク、好きな人ができたとき（「恋愛指南12のコツ」参照）、からだを動かす体験、コピーンググッズの紹介・体験
- 6回目… うれしいこと日記、感情修復ツール（ツールボックス）を使ってみた感想、人と人との関係（同心円ワーク）、ストレス解消方法、からだを動かす体験、コピーンググッズの紹介・体験

③参加者

平成 30 年度から令和元年度までに大阪市発達障がい者支援センターに就労を目的に相談来所し、まだ就労支援機関の利用に至っていない、成人期の発達障がいの当事者 2 名（在宅、男性 2 名、38 歳・39 歳；平均年齢 38.7 歳）。また、ノウハウの共有を目的に、大阪市職業リハビリテーションセンター ジョブコミュニケーション科（訓練生 5 名、男性 5 名、22 歳～27 歳；平均年齢 24.7 歳、スタッフ 1 名）と共催で実施した。この他に、就労移行支援事業所のスタッフ 1 名が見学参加した。

④実施時期

令和元年 10 月 29 日 ～ 令和 2 年 3 月 24 日 連続 6 回（月 1 回）実施

⑤実施場所

大阪市長居障がい者スポーツセンター、大阪市職業リハビリテーションセンター

⑥アンケート結果

毎回参加者全員に実施。

参加者 7 名中 6 名は、グループワークとからだを動かす体験ともに役立ち度・理解度の評価（以下、「評価」という。）が 4 段階評価で 3（役に立った・わかりやすかった）または 4（とても役に立った・とてもわかりやすかった）であった。

当初、グループワークの評価が 2.5（ふつう）、からだを動かす体験の評価が 2（ふつう）と低かった参加者も、3 回目より楽しそうに参加する姿が見られるようになり、4 回目以降は評価が 3（役に立った・わかりやすかった）に変化した。

⑦参加者の感想（抜粋）

参加者からは次のような感想（抜粋）が聞かれた。

「様々な『うれしい』の感じ方があることがわかった」、「他の人のストレス解消法が学べてよかった」、「『好き』を発信するのは気持ちが良い」、「自分の人間関係の認識・考え方が通常と異なっていることを再認識した」、「からだを動かすのは楽しい」、「ストレッチをしてリラックスできた」、など。

（2）成人期支援者向け公開講座「発達障がいがある方のセクシュアリティ支援」 （効果的な支援手法の紹介）

①内容

「セクシュアリティ支援」、「性教育」の概論とさまざまな性のあり方等について座学で学んだ後、講師の指導で、性的な誘いを断る、マスターベーション、勃起、月経について語る等、のテーマで 2 人から 4、5 人のグループで話し合い、感想を述べあうワークを実施。具体的な性教育の教材や本なども多数使い方のデモンストレーションをしながら紹介を行った。

②参加者

大阪市内にある成人支援事業所の職員 67 名、教育関係 1 名、区家庭児童相談員 1 名、行政 1 名
総計 70 名

③実施日

令和2年1月15日（水）

④実施場所

大阪私学会館

⑤アンケート結果

参加者70名のうち68名から回答があり、講演内容については、理解度・満足度ともに96%の方が分かりやすかった、参考になったと回答されており、いずれも好評だったことが窺える結果であった。



⑦参加者の感想、意見（抜粋）

参加者からは次のような感想、意見（抜粋）が聞かれた。

- ・初めてのセクシャリティ支援の講座で今後の相談業務に生かすことができると思う。視覚支援の具体的な教材はとても理解しやすく参考にして作ってみたいと思った。
- ・勉強になりました。もっと性行為、自慰、恋愛についてなど個別に勉強したくなりました。
- ・アウトプットをしてみて、少しさけていた事に対して少し上手に話せるような気がしました。
- ・”性”の話は私の職場でもどうにもはばかれ、否定的に捉えられてしまいます。女性の利用者さんも生理のことはある特定の女性支援者（5人中2人）にしか話せないでいることに少し不安を覚えます。”サラッと””淡々と”伝えることは大切ですね。
- ・性器分化の動画は非常に興味深かった。是非児童のうちに見るべきものの1つだと思った。LGBTQAなどのことに少しだが触れていてうれしく感じた。

3. 分析・考察

（1）ころとからだのワークショップ

グループワーク終了時まで、参加者2名中1名が就労継続B型事業所に、もう1名は当事者会につながり、定期的な利用を開始している。大阪市職業リハビリテーションセンター ジョブコミュニケーション科訓練生の5名中3名は令和元年10月の入校後精神的に不安定な状態が続いていたが、グループワークへの参加をきっかけに安定したことから、当事者にとっては、ワークショップ参加による自身の振り返りや、今後の具体的な目標設定を改めて行う場ともなり、就労準備に向けた第1歩につながっている。

本人に関わる様々な支援者が、支援現場で着実に活用することができるよう、不適応を起こしにくい「ころとからだづくり」をめざす支援手法（グループワーク）について、更に普及を進めていくことが今後の課題である。グループワークを普及させるために、積極的に支援機関に働きかけをし、共催することや支援者の参加などによりノウハウを共有していく。

令和2年度においても、同様の手法により実施するとともに支援機関との共催や支援者の参加の機会を設定し、引き続きグループワークの普及をめざす。

(2) 成人期支援者向け公開講座「発達障がいがある方のセクシュアリティ支援」

(効果的な支援手法の紹介)

支援者の方たち自らが「セクシュアリティ支援」の概念を学び「性」について語るワークを経験したことで、生きるために必要な「性」について利用者に対峙して話すきっかけづくりになり、まず第一段階として今回の研修会は効果があったものと思われる。

参加者がそれぞれの事業所で本格的に「セクシュアリティ支援」を実践していくには、今後もワークショップに参加してより実践的なワークを経験し、指導事例を重ねていくことが望ましいと思われる。

令和2年度は、成人期の支援者を対象にノウハウを学ぶ数十人規模のワークショップを開催し、実践的な「セクシュアリティ支援」普及の一助としたい。

